



# 兵庫県丹波市のニューカマー外国人生活実態調査報告：中国人女性を対象とした聞き取り調査より

芦田, 華歩 ; 足立, 華苗 ; 今村, 悠希 ; 梶村, 美緒 ; 田中, まどか ; 野瀬, 彩未 ; 萩原, 茉那 ; 藤本, 唯 ; 久保, 哲成

---

(Citation)

兵庫地理, 60:103-109

(Issue Date)

2015

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90005219>



# 兵庫県丹波市のニューカマー外国人生活実態調査報告

## — 中国人女性を対象とした聞き取り調査より —

兵庫県立柏原高等学校インターアクト部

芦田 華歩・足立 華苗・今村 悠希・梶村 美緒・田中 まどか  
野瀬 彩未・萩原 茉那・藤本 唯・久保 哲成 (顧問)

### 1. ニューカマー外国人とは

#### (1) ニューカマー外国人の定義

ニューカマー (またはニューカマーズ) とは、1980年代以降に日本へ渡り長期滞在する外国人を指す。ニューカマーに対して、オールドカマーとは、第2次世界大戦前や大戦後に来日し長期滞在を始めた在日韓国・朝鮮人や在日台湾人、中国人を指す。この人たちと区別するための概念としてニューカマーという概念が出てきた。ニューカマー外国人は、韓国系、朝鮮系だけではなく、中国系 (華人ニューカマー)、東南アジア (フィリピン、ベトナム) や日系ブラジル人など南米系移民も含む。

#### (2) ニューカマー外国人の増加の理由

外国人登録制度の登録数を見てみると、1959年 (昭和34) に67万人、1984年 (昭和59) に84万人とその伸びは緩やかであったが、1984年以降は1990年 (平成2) に100万人を超え、2005年 (平成17) には200万人を超すというような急激な増加がみられる。この数字の変化から、2005年 (平成17) には、ニューカマー外国人が、在日外国人の7割近くを占めるようになっている現状が理解できる。

ニューカマー外国人の増加の理由は、二つのことで説明できる。第一に、日本の東・東南アジア諸国と日本との関係が良好になってきたことによる。1972年 (昭和47) の日中国交正常化、1979年 (昭和54) の台湾にお

ける海外出国自由化により、中国系ニューカマーが増加の兆しを見せ始めた。1983年 (昭和58) の中曽根内閣による「21世紀への留学生政策に関する提言」に始まるいわゆる「留学生10万人計画」により留学生の急増にしたことによる。

第二に、1990年代に入り、バブル崩壊を迎えて多くの中小企業はコスト削減、安価な労働力確保のために外国人労働者に注目するようになった。1990年の出入国管理及び難民認定法改正による在留資格の再編、1993年創設の技能実習制度の導入により、外国人研修生の滞在年数を短期から長期に変更することが可能になった。2007年 (平成18年) 末時点での外国人登録者数が10万人を超える都府県は、多い順に東京都、愛知県、大阪府、神奈川県、埼玉県、千葉県、兵庫県、静岡県といずれも工業地帯に位置しており、産業構造とも深く結びついていることがわかる

### 2. 在日中国人とは

#### (1) 在日中国人人口について

独立行政法人統計センターによると、2010年 (平成21年) 12月末時点では中国大陸出身者と台湾出身者を合わせて687,156人が外国人登録されており、これは565,989人の在日韓国・朝鮮人を超え、在日外国人で1位の人口規模である。2010年 (平成21) 12月末の在日中国人の国内分布は東京が最も多く164,201人、次いで横浜を擁する神奈川が56,095人、以下、大阪府51,056人、埼玉

48,419人、愛知 47,454人、千葉県 45,427人、兵庫 25,585人、福岡県 21,936人、茨城 15,726人、岐阜県 15,340人と続く。このように在日中国人の居住地は大都市圏に集中しているが、中でも関東南部への集中が顕著である。なお、表に表れない非公式な数字を入れると東京には二倍の 30 万人以上が居住しているといわれる。それほどに中国人の東京への一極集中が顕著である

在日中国人の出身地は東北部や華北出身者が増え続けているが、北京や上海の出身者は減り続けている。西部や南西部出身者は極めて少ない。

日本国籍を取得した在日中国人、つまり中国系日本人の数は、平成 12 年から平成 21 年の 10 年間で 4 万人以上である。

## (2) 日本の華僑について

横浜、神戸、長崎では居留地の中（神戸は隣接地）に中華街が形成され、日本三大中華街に発展した。これは、当初来日する外国商人は中国の開港場から来る者が多く、日本は漢字が通用するので中国人買弁が通訳として同行してきたためである。その後日本と中国各地の開港場に定期船航路が開けると、中国人商人（華僑）が独自に進出してきた。

中国人もオランダ人同様、長崎唐人屋敷で長年日本貿易を行ってきた歴史がある。神戸に進出した華僑は富裕な貿易商が多く、彼らは北野町とその西に居を構えた。これが神戸の関帝廟が例外的に中華街から離れた山手の住宅地に存在する理由である。大阪の川口居留地周辺には、居留地廃止後に華僑が進出したが、現在は数世帯の子孫を残すのみとなっている。横浜に進出した華僑は、その大半が飲食業を営んだために、中華街の面積が大きくなった。

現在、日本においても多くの華僑が存在し、主に経済や文化芸能の方面で活躍が見られる。女優の鳳蘭、野球の王貞治、経済評論家の邱

永漢、インスタントラーメンの発明者である安藤百福（呉百福、戦後の一時期）、囲碁の呉清源（戦後の一時期）、小説家の陳舜臣、料理家の周富徳・富輝兄弟、歌手のジュディ・オング（翁倩玉）、アグネス・チャン（陳美齡）、テレサ・テン（鄧麗君）などが有名である。

## (3) 神戸華僑について

現在、横浜華僑 6000 人に対して神戸華僑はその倍近い 1 万人を超えているといわれる。しかし、横浜中華街と比べると神戸南京町は規模が随分と小ぶりである。実際に生活の場でもある横浜中華街と違い、神戸の南京町には居住者は少なく、ほぼ純然たる商業地となっているためである。関帝廟や神戸中華同文学学校などの華僑関連施設は山手に点在している。実際の神戸華僑の居住地は、鯉川筋、トアロード、北野町などであり、神戸の有名な中華料理店の大半も南京町ではなく三宮など市内中心部に拠点を置いている。

これは、神戸では南京町が居留地ではなく雑居地に開かれた結果ではあるが、また同時に神戸華僑の人々が他の地域に比べて日本人社会と良好な関係を築いてきた証拠ともいえる。神戸では、古くは呉錦堂に代表されるように事業に成功した者が多く、華僑といえど「商売上手で裕福な人が多い」と認識されてきた為、民族的対立も比較的少なく前述の通り日本人社会との良好な関係を築いてきたといえる。それゆえ、戦前の一時期南京さん等の言葉が侮蔑的に用いられた事はあったものの、南京町という名称は既に世間に広く認知されているとして戦後も名称を変更する動きもなかった（横浜と長崎では、中華街に改称している）。

近年、春節祭（旧正月）などの主要な行事に、多くの日本人も参加している。当日には多くの市民や観光客が集まり、南京町のみならず神戸の重要な行事にもなっており、関西地方の地域ニュースでも毎年おなじみの光景

である。また、最近では、経済発展著しい中国への関心の高まりで華僑子弟の多くが通う神戸中華同文学校に入学を希望する日本人子弟も急増している。

(4) 南京町について

南京町（なんきんまち）は、神戸市中央区の元町通と栄町通にまたがる狭いエリアの通称で、正式な地名ではない。南京町商店街振興組合の登録商標でもあり、中国風の意匠を特徴とするチャイナタウンである。

横浜中華街、長崎新地中華街とともに日本三大チャイナタウンの一つに数えられ、東西約 200m、南北 110m の範囲に 100 あまりの店舗が軒を連ねる。店頭の路上で点心、スイーツ、食材、記念品などを売る店も多く、休日は地元の買い物客や観光客で賑わう。「南京町」という用語はかつて中国人街を指す一般名称であった。しかし、そのほとんどは戦後に改称したため、現在では事実上神戸のこの地区のみを指す固有名詞となっている。

1868 年に神戸港が開港し、外国人用の居留地が設けられた。当時、清国との間には通商条約を結んでいなかったため、華僑は居留地内に住むことを許可されずに、西隣に住み始めたのが南京町の始まりとされる。1945 年（昭和 20 年）の神戸大空襲で全焼。戦後は主に進駐軍相手の歓楽街として復興したが、その名残もあって退廃化が進み、1970 年代までは路地の舗装もされず、周辺には船員向けのバーが立ち並び、夜になれば街娼が立つようなエリアとなっていた。1981 年（昭和 56 年）の「南京町復興環境整備事業実施計画」以降は広場や楼門の建造などの環境整備が行われ、一気に観光地化が進んだ。現在では南京町と呼ばれる区画も当時の二倍に広がり、新興や他地区から移転してきた中華料理店が続々と立ち並んでいる。阪神・淡路大震災においても被害を受けたが復興を果たしている。特に、罹災直後から行われた店頭での軽食販

売は好評を博し、現在も継続されて南京町の名物となっている。

3. 丹波市在住の中国人への聞き取り調査の結果

(1) 丹波市在住外国人の人口

丹波市在住外国人の総数は 646 人（2014 年（平成 26 年）現在）である。丹波市の総人口が 6 万 7705 人であることから考えると、丹波市民の約 100 人に 1 人が外国人であることが分かる。兵庫県の中東部に位置する小地方都市としては、多くの外国人が生活していることが分かる。

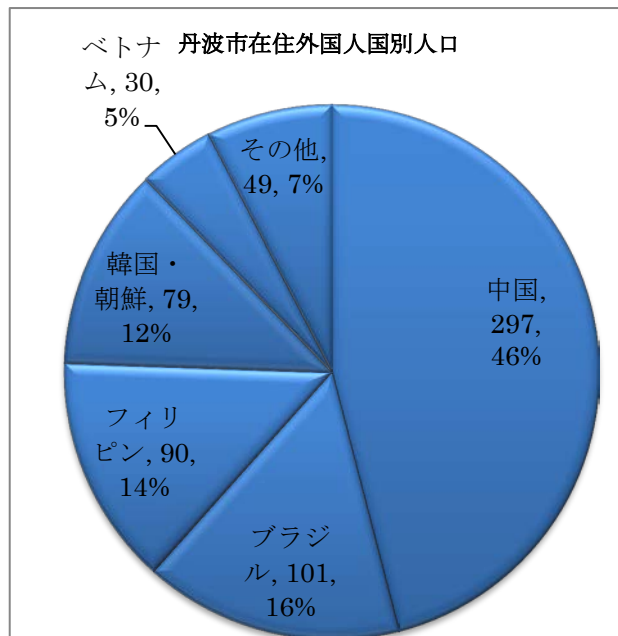


図 1 丹波市在住外国人の国別人数（2014 年（平成 26 年）現在：丹波市市役所統計より）

国籍別の特徴として、オールドカマーと考えられる韓国・朝鮮人の占める割合が、4 位の 79 人の 12%となっており、意外と少ない。それに引き換え、ニューカマー外国人の中国、ブラジル、フィリピンが 1, 2, 3 位となっていることが分かる。来日理由はさまざまであるが、概ね次のようになっている。中国人の場合、工場研修生および結婚。ブラジル人の場合、工場勤務。フィリピン人の場合、結婚。

ベトナム人の場合、工場研修生となっている。

今回の生活実態聞き取り調査は、丹波市で最大外国人人口の中国人の方々を対象として行った。

## (2) 生活実態聞き取り調査の結果

今回(2013年(平成24年)10月実施)の聞き取り調査は、来日10年以上の4人の中国人女性を対象に行った。彼女らの来日理由は、4人とも日本人男性との結婚であった。

**聞き取り項目1:** 平日はどんなお仕事をされていますか?(勤務先) また、どのような作業を行っていますか?

- ・Eさん 日電気、プリント機の検査
- ・Fさん 段ボール切り
- ・Nさん 工場での仕事
- ・Sさん 部品の検査

全員、製造業(工場)へ勤務されている。専業主婦はおられなかった。このことは、日本語が少々できなくても従事できる仕事として、製造業(工場)に勤務している。サービス業や商業などの第3次産業では、接客の場面が多くなるので、どうしても、敬語の使い方不安を抱える彼女らには負担感が大きいようである。

**聞き取り項目2:** 日本に来た当時困ったことはどんなことでしたか?

- ・Fさん 日本語が分からない。
- ・Nさん 中国にいたころ日本語を勉強していた。しかし、方言等の関係で、全く違い、役に立たなかった。
- ・Sさん 言葉、食事の味が薄い。

来日当時困ったことは、やはり、日本語がわからなかったことが最上位に来る。しかし、漢字の意味は共通することがあるので、3割ぐらいは書かれていることがわかったと言われていた。非漢字文化圏から来日したブラジル人の人達より、日本語の習得には時間がか

からないようである。また、食生活、料理の味付けの違いが大きい。日本料理は味付けが薄い、家庭で料理を作る際、濃い味付けになり、夫や夫の父母から文句が出ることもある。この部分は、いつも気を付けているが、つい濃い味付けになってしまい、悩んでいるとのことである。

**聞き取り項目3:** 仕事で困っている事は?

- ・Nさん 上司に早口で話されると分からない。また、敬語で話されるとよくわからない。

他の3人の方は、仕事上で特段、困っていることはなかった。Nさんは、やはり、日本語の面で、特に日本語の敬語の使い方に悩んでいる。

**聞き取り項目4:** 日本に来て困った時どうしましたか?

- ・Eさん 分からない日本語は、自分で辞書を使って調べる。また、会社の人、母親同士での情報交換をしている。
- ・Fさん 主人に助けられている。
- ・Nさん 困ったことはすべて夫に相談している。
- ・Sさん 分からない日本語は辞書を使った、インターネット

日本語の問題に関しては、辞書やインターネットなどを利用して理解を深めている。日常生活の問題の解消や情報に関しては、会社の同僚や近所の親しい主婦から話を聞いて解消しているが、やはり最も頼りにしているのは夫であり、夫が一番の心の支えになった。

**聞き取り項目5:** 日常生活の中で国籍や民族、文化によって、嫌な経験をしたことがありますか?

- ・Fさん あり
- ・Nさん なし
- ・Sさん あり

現在の日中関係の悪化の影響か、中国人であることで、日本人の言動で嫌な思いをされた経験がある人が多い。心の痛むことである。

**聞き取り項目 6** : 日本人とコミュニケーションをとる際に、心掛けていることはありますか？

- ・Fさん 楽しく話す。
- ・Nさん あまりない。敬語はわからないのであまり考ない。
- ・Sさん とくにない、冗談を言ったりもする。

職場での日本語での会話には、日本人が早口でしゃべると付いていけない時があったり敬語の使い方に戸惑ったりすることがあるが、近所の方との日本語の会話ではリラックスして、冗談も言い合いながらコミュニケーションを取れている。

**聞き取り項目 7** : 近所や職場、地域の日本人と今後どのように付き合いをしていきたいと思えますか？

- ・Fさん もっと多くの人と親しくなりたい。
  - ・Nさん できれば親しくなりたい。
  - ・Sさん 親しくならなくてもよい。
- その人の性格にもよるが、日本人ともっと親しくなりたいと思っている人が多い。

**聞き取り項目 8** : あなたは地域活動行動に参加したことがありますか？

- ・Fさん よく参加する（公民館の掃除、旅行）。
- ・Nさん よく参加する。
- ・Sさん あまり参加していない、別にない。

積極的に日本人と関わろうとしている人が多く、このことを丹波市民は気付かなければならない。

**聞き取り項目 9** : 好きな行事はなんですか？

- ・Fさん 旅行。
- ・Nさん 祭りなどは楽しいと思う。習慣が違うから、戸惑うことは多いけど積極的に色々参加している。
- ・Sさん 習慣の違いなどがあって日本人

と仲良くなるのは難しい。

全般に、日本人の習慣に戸惑う場面もあるが、地域行事に積極的に参加し、日本人との交流を取ろうとする前向きな姿勢が見て取れる。Sさんの場合は、彼女の人柄か、地域との交流を積極的に取ろうとはしていない。

**聞き取り項目 10** : このまま丹波に住み続ける気はありますか？

- ・Fさん 住みたい。たまに中国に帰りたい。
- ・Nさん 初めは中国に住んでいた所より、便利が悪く、戸惑うことが多かったが、今は田舎もいいと思うようになった。

- ・Sさん 今まで住んできたので住み続けたい。

基本的に丹波市の生活が好きで一定の満足感がある。Sさんも丹波市での生活に満足感を抱いているようで、聞き取り項目7～9で消極的な回答をしていたので心配していたが、少し安心した。

### (3) 聞き取り調査からわかったこと

1 丹波市に居住している中国人は女性が大半を占めている。その理由は、日本人男性との結婚と製造業の研修生として来日していることによる。

2 結婚を機に来日した女性も日本での生活になれると、製造業（工場）に就職して家計を支えている。

3 来日当時より、日本語に苦労していることが分かる。微妙な表現や敬語の使用について苦戦している。しかし、ブラジル人やフィリピン人に比較すると、漢字文化圏の属する中国人の人達は、書かれた日本語であれば意味の3割ぐらいは理解できると言うことである。

4 日本での生活で問題が生じた場合は、夫が最も支えてくれる存在であることがわかる。近所の主婦や会社の同僚からも支えられてい

て、日本人コミュニティへの信頼を徐々醸成されていることが分かる。

5 しかし、日中関係の悪化という政治的な問題から、日本人から心無い言葉を聞かされることもある。

6 日本人ともっと親しくなりたいと思っている。そのため、地域の行事（清掃活動、旅行等）にも積極的に参加している様子が分かる。

7 また、丹波市での生活に一定の満足感を覚えていることはありがたい限りである。

#### 4. 丹波市の外国人と日本人の交流事業の実施

##### （1）交流事業実施のきっかけ

3（3）の6にあるように、丹波市在住の中国人主婦の方々は、「日本人ともっと親しくなりたい」、「そのため、地域の行事にも積極的に参加している」ことがわかった。これを受けて、私たちの部活では、何か、丹波市民と市内在住の外国人とが楽しめる行事ができないかと考え始めた。そこで、外国人参加の演芸大会（歌唱、演舞）を企画した。

##### （2）2回の外国人演芸大会の実施

2013年（平成25年）に2回の外国人演芸大会を実施した。1回目は6月に、柏原ロータリークラブ・丹波市国際交流協会との共催で「国際交流プロジェクト」の名称で実施した。2回目は11月に丹波市国際交流協会との共催で「多文化共生フォーラム」の中で、時間を設けてもらい実施できた。その時の様子は以下の2枚の写真見てください。1枚目が6月に実施した「国際交流プロジェクト」の一場面です。2枚目が11月に実施した「多文化共生フォーラム」の一場面です。



##### （3）丹波市民と外国人の交流事業の実施の成果

###### 1）参加した外国人の感想

- ①参加して、大変楽しかった。来年もこのような企画を実施してほしい。
- ②自分の国の文化を伝える良い機会だった。
- ③自分の国の代表料理を作って持ってきました。日本人が美味しいと言ってきて嬉しかった。
- ④会場で、今まで知らなかった沢山の日本人とお話できて嬉しかった。街で私を見かけたら、遠慮せずに声をかけてくださいね。

###### 2）参加した日本人（大人）の感想

- ①丹波市にこれだけ多くの外国人が暮らしていることを知り驚いた。
- ②今までは、外国人の人に、日本人が支援するばかりで、彼らの良さや彼らの文化を知ってもらえる機会を作ってこなかったと反省している。
- ③外国人の方が誇らしく、自分の国の歌や踊り、料理を披露していることに好感を持った。

### 3) 参加した日本人（高校生）の感想

①この企画を通して、外国人と話す機会が増え、外国人と話しやすくなった！外国人に対しての偏見が無くなった。

②親日感情を持っていないと思っている中国の人と話しをしてみて、同じ価値観や思いを感じていることが分かった。中国の方への偏見が無くなった。

③外国人の日本に対して感じていることを知り、新しい考え方を持った。例えば「日本人の正直さや誠実さ」、「日本人は約束、時間を守る」などの良い点、しかし、「初対面の外国人には親しく話し掛けない」、「外国人が道を聞いても、無視して通り過ぎる」等の外国人を受け入れない姿勢や行動がある。

(あしだ かほ・あだち かな・いまむら ゆうき・かじむら みお・たなか まどか・のせ あやみ・はぎわら まな・ふじもと ゆい・くぼ てつなり・兵庫県立柏原高等学校)

#### 【参考HP・文献】

##### 1 「華僑 - Wikipedia」

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8F%AF%E5%83%91>)

##### 2 「居留地と華僑 - Wikipedia」

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E5%B1%85%E7%95%99%E5%9C%B0#.E5.B1.85.E7.95.99.E5.9C.B0.E3.81.A8.E8.8F.AF.E5.83.91>)

##### 3 「在日中国人 - Wikipedia」

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%A8%E6%97%A5%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E4%BA%BA>)

##### 4 「南京町 - Wikipedia」

([http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%97%E4%BA%AC%E7%94%BA\\_\(%E7%A5%9E%E6%88%B](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%97%E4%BA%AC%E7%94%BA_(%E7%A5%9E%E6%88%B))

5 『素顔の華僑 逆境に耐える』 神戸新聞社編（人文書院：1987年）

6 『在日華僑のアイデンティティの変容』 過放（東信堂：1999年）

7 『日本人は誰も気づいていない在留中国人の実態』 千葉 明（采図社：2010年）